

楽しや5月
草木は萌え
小川の岸に
すみれ匂う



第15号 2008年4月30日発行



絵:望月 則男さん

運営が変わりました

拠点やまとが市民活動センターの運営を開始して1ヶ月が過ぎました。その間、登録団体のみなさまには変わらぬご利用をいただき、ありがとうございます。

前号の『あの手この手』では「運営方法が変わっても市民が運営する市民感覚は健在です。」とお伝えしましたが、なかなかこの点を理解していただくのは難しいようでした。そこで、5月の共育マネジメントセミナーでは今までの協働事業をふりかえり、本年度の体制もお話しつつ、これからのセンターをみなさまと考えたいと思っています。

多くの方々のご参加をお待ちいたしております。

第10回

「市民活動共育マネジメントセミナー」

えっ！市民活動センターの運営方法が変わったのに今までと変わらない？

～市民活動センターのきのう・きょう・あした～

2008年5月31日(土) 10:00～12:00
市民活動センター 会議室

【拠点やまと】メンバー

浅見	正明	石川	美恵子	小杉	皓男
桜井	貞代	関根	孝子	中山	みゆき
松村	襄	山田	裕子		

9回連続で実施してきた

ともいく

共育マネージメントセミナー



ゲストにお迎えした平田さんから、会社の略歴、月刊情報誌「HIT」が生まれた経緯をご紹介いただき、いかに地域の人たちを大切に考えている会社かということがわかり、「市民活動団体と企業・事業者との縁結び」のテーマにぴったりで、お招きした甲斐があったとうれしく思いました。

営利目的ではない活動に会議室をコミュニティースペースとして開放しているとの話を聞いて、参加した団体の人たちはそれぞれに平田自動車さんとのこれからの関わりを思い描いていたようです。団体のミーティングスペースとして借りられないか、情報誌「HIT」に情報掲載をお願いするとしたらどのように手続きをしたらよいか、などなどの質問が出ました。平田さんからひとつひとつついでに具体的に答えいただき

4月26日(土)に開催しました

市民活動団体と 企業・事業者との縁結び PART2」 ゲスト 平田 行雄さん

平田自動車(株)代表取締役

平田自動車(株)は地域とのきずなを大切に、地域の情報の橋渡し役として月刊情報誌「HIT」を発行しています。また、「ふれあいの場」として会議室をコミュニティースペースとして地域の人たちに提供しています。

活動の中が広がっていくのを実感しました。

コミュニティースペースを利用して「ちぎり絵」を習っているグループの人たちも参加されていて、市民活動団体の生き生きとした活動実態を聞くことができ、これからはセンターを利用したい、との意見も出ました。

「HIT」の配布エリアからはずれている地域の人たちのために次号からはセンターに50部お届けして下さることになりました。

3月11日(火)

<ボランティアグループみらい>

50歳代～80歳代のメンバー13名が「子ども達には暖かく・人に優しく出会いを大切に」をモットーにさまざまな活動を行っています。

・車椅子の清掃点検・庭木の剪定、草とり・簡単な日曜大工・照明器具の交換など自分の得意分野を生かして、できる人が出来るときに活動するというコンセプトで動いています。ボランティア活動中に突然スズメバチの襲来にあつたりのハプニングもありますが、会員同士がお互いにお互いの身を案じることで、絆が強くなっていきますと楽しそうに話していました。

3月18日(火)

<大和市食生活改善推進協議会>

昭和40年大和保健所の誕生とともに発足したグループです。県、市の委託事業や行政からの依頼事業などの活動を主流にやっています。赤ちゃんからお年寄りまでの食生活改善を啓発普及させながら、「1に運動2に食事、しっかり禁煙、最後にクスリ」と健康寿命の延伸に寄与していきたいと熱く語っていました。

3月25日(火)

<NPO法人サポートハウス ワン・ピース>

障害児の放課後の居場所を、と設立された「ワン・ピース」が、5年目の現在では3カ所(スリー・ピース)になり、週1日ですが、家族に貴重な時間を提供している。名前の由来は、ジグソーパズルは、ピースひとつづつが大切に、ひとりひとりの子どもたちを大切にしたいという思いから「ワン・ピース」と名付けた。障害を特別の目で見ないで同じ人間の仲間として付き合っていってほしい、と代表の滝本さんの言葉です。

利用者のお母さんは、大和で暮してよかった、と思える市になってほしいと語り、3月に中学を卒業したY君は「ワン・ピース」も卒業しなければならぬので、高校生になっても通える「フォー・ピース」を作ってほしいとの希望を述べました。

F M
やまと

77.7

MHz

「やまとっこ
みつけた」

毎週
(火)

9:05

1

9:20

4月1日(火)

<シネマ・サークル>

約10年前、市からの要請により文化活動の一環として立ち上げた。現在会員30名が映画鑑賞を通じての会員相互の親睦を図っている。映画上映後会場で30分から1時間くらい講評やお互いのウンチクを傾けながらの懇談会を行っています。終了後それでも物足りない方は、近くの居酒屋で一杯飲みながら延々3時間4時間と語り合うこれが実に楽しい、と熱く語りました。

4月8日(火)

<生活クラブ生協大和コモンズ>

提供生産者とともに「安全・健康・環境」を最優先して作った消費材の共同購入をしている生活協同組合。おいしくて安全な食材を毎日の食卓に確保する為に、添加物や農薬をできるだけ使用しない物を作ってもらうよう、利用する量を生産者に約束して予約購入しています。環境問題も積極的に取り組み川や海を汚さないよう石鹸運動にも力を入れています。組合員相互の困った時はお互いさまの助け合いのしくみの中で、個々の考え方や思いを組合員皆で大切にしています。

4月15日(火)

<パソコンコミュニケーションアシスト ピコピコ>

障害者、高齢者の方がパソコンの知識や技術を生かして自立・就労・地域での社会参加できるよう支援しているグループです。障害者は、一人一人持つ障害がちがいます。マニュアルがないので、細かくコミュニケーションを取り理解度を確認しながら、その人にあつた学びを指導出来るよう会員は研修を通して勉強しています。情報化推進事業の一つとして「シニアのための携帯電話講習会」が5月～11月にかけて大和市民活動センターで開催されます。

4月22日(火)

<NPO法人WE21ジャパン大和>

桜ヶ丘駅近くでリサイクル品を扱う「WEショップ」を運営しています。資源のリユース・リサイクルと海外支援活動をおもな活動としています。

家庭で使わなくなった衣類や雑貨を寄付していただき、ボランティアさんが販売、その収益が海外の人たちの自立のためのプロジェクト支援に回ります。捨てればゴミになってしまうものが、ボランティアさんの手によって販売され、他の人の役に立って生き返る。とても意義のある活動だと思います。支援されることによってコミュニティの人間関係が崩壊しないよう支援内容、支援方法に心をくだしている、と強調されていました。



ディスクジョッキー ジョニーさんからのメッセージ

「FMやまとが変わります

5月12日(月)から、もっと地元の方々に親しんでもらえるように、地域情報盛りだくさんのラジオ局になります。詳しくは5月11日の市民まつりの公開放送で発表、お楽しみに」

第8回 おしゃべり・ラウンジ 『パルス』 ~絵を描くのが好きで好きで~

3月29日(土)に絵本作家の手塚カズさんをお招きして開催しました。



手塚カズさん 絵・望月則男さん

85歳の手塚カズさんは、定年退職後に絵本を描き始めたバリバリの現役絵本作家です。

命の大切さをテーマに描き続けていらっしゃる手塚さんから、絵本への思いをお聞きしたくて『パルス』にお招きしました。

演劇を通じて手塚さんのファンになった人たち、絵本作家志望の人、ボランティアで関わりのあった人などがお会いするのを心待ちにして、手塚さんの到着を待っていました。到着された手塚さんを拍手でお迎えして、『パルス』が始まりました。

『あしたへつづく道』の演劇をDVDで鑑賞した後、和やかな雰囲気での会話が始まりました。

『パルス』に出席いただいた後日、手塚さんから次のような感想が寄せられました。

絵本作家を希望されている間山さんからは E メールをいただきました。私が定年を迎え、念願の絵本の道を歩む生き方に、勇気と自信を得た、と言っておられた。

この『パルス』が出席者の自由な発言を基調としている証拠として、小学2年の石田柚香利さんが発言しました。柚香利ちゃんは『演劇やまと塾』では、かけがえないピカイチの存在です。

及川さんは市民農園で野菜を作るかたわら、ボランティア活動にも積極的に参加、今回も私のために終始つきあってくれました。私は『ありがとう』以外の言葉ができませんでした。石原さん、水野さん同様、私利私欲をはなれ『まっとう』な生き方を実践する方を『聖なる人』といわずして、何と呼ぶことができましょうか。架空の神を信じるより、現実のこの方々にスポットをあてなければ、世界に明日はないでしょう。大和映像サロンの野田さんが『パルス』の雰囲気を記録として映像化できればいいなって、おっしゃっていたような気がします。

第8回『おしゃべりラウンジ パルス』に出席した時の感想を、思いつくまま書きます。

外出が不自由な私を、ボランティアの及川さん(ボランティアグループみらいの代表)に助けて頂き、楽しいひとときを過ごさせて頂きました。

司会者の方が『桜の花は見ましたか』とおっしゃってくれました。私は一年に2、3度の外出なので、桜も街並みも人も新鮮に映り、大げさではなく感動いたしました。

当日は『大和映像サロン』制作、『演劇やまと塾』の『あしたへつづく道』の上映があり、その後、話し合いに入りました。

拙い私の話に感動されたという、介護歴20年のパルスのこの日におられた石原さんからお手紙をいただきました。ひとくちに20年といいますが、そのご経験は私如き者の想像を超えたものに違いありません。

更生保護助成の会の水野さんは、不幸にして罪を犯した人のアフタケアをなさっております。石原さんも水野さんも決して多くを語りません。私はこのような方々こそ『パルス』にとりあげ、共に考え、生きる『よすが』とされることを願っています。



手塚カズさんの絵本『あしたへつづく道』(表紙)

他に『ぶながやの森』『どろんこ天使』『いのちの童話』『メダカ銀河をゆく』

があります。市民活動センターで貸出しをしています。

~おいしく食べて国際交流~ その6 インド料理

相鉄線相模大塚駅を下り厚木街道を海老名方面に向かい、約3分歩くと左側にエスニック風の看板が目立つ。そこがRANIラニー大和店。本格インド、バンガラカレー専門店、開店して7年も経つという。(他に多摩センター店、八王子鍾水店を営業中) 駐車場があり立ち寄りやすい。米軍厚木基地が近接し基地関係者も来店し国際的でもある。昼時、絶え間なく10のテーブル席は、ほぼ満席となる。インド象とライオンを描いた壁掛け絵や象の置物、そしてインド人の料理人や店員4人(シェフは取材の当日、昨年11月開店の八王子鍾水店に出かけ不在)、そしてインド風衣装パンジャミを着た美しい女性1人が応接する店内は“インド”を感じさせる。“ラニー”とはヒンディー語で“クイーン”を意味するとのこと。



<RANI ラニー>
相模大塚駅より徒歩5分
大和市核森 2-14-17
大山ビル1F
電話: 046-260-6444
開店: 11:00~23:00
http://www.rani.jp/
駐車場あり・年中無休

カレー、ナン、サラダにドリンク・マサイチャイも付いて900円弱のお得値段。辛口カレーは心地好い味。空気を含み膨らんだ大きな美味。
“ナン”とはインドなどでタンドールという窯で焼いて作る木の葉形の発酵させたパン。
インドの方は大和市内に約80人居られる。大和市が生活しやすい所になるように応援しましょう。

インドの言葉は多民族・広域・多人口の中で、言語類10以上、大きな方言だけでも何十もあり、“互いに他国語”のようだとのこと。ヒンディー語は5億人以上の人が使うので、インドの標準語です。

・おはよう、こんにちは、こんばんは、
さようなら : ナマステ
・おいしい : スワディシュ
・ありがとう : ダンヤド

街で見つけたよ！

センター同様、4月から新しいスタートを切ったところを見つけました。

小田急線を挟んでセンターと反対側にある大和市立光丘中学校です。ここは築46年が経ち建物が老朽化していること、耐震強度不足で昨年度、校舎と体育館の立替工事が進められていましたが、4月から新しい建物で新学期がスタートしました。

現在、旧校舎の取り壊し作業が進められています。旧校舎の周りに植えられていた桜の木は、この春美しく咲いた後、校舎の取り壊し作業の支障とな

* ヒマラヤ杉は何を想う *



るため伐採されてしまいました。校門にあった学校名のプレートは新校舎側校門に移動され、ただ1本残されたヒマラヤ杉だけが寂しげに立っています。校舎取り壊し作業が終わった頃には、ここに“我あり”と勢いを取り戻し、やがて来る夏の暑い日差しをさえぎりながら、生徒たちを見守る樹となっていることを願っています。

* 大和市は市民向け債券「まほろば市民債」を発行し、新校舎の建設費の一部に充てました。(T.M.)

【 ある日ある時 】

4月2日(水)晴れ

ひばりが丘高校3年生の女子生徒が3人来館しました。ボランティア活動希望とのことでしたので、カッコーフェスタの話や昨年の「NPO法人サポートハウスワン・ピース」の交流会の話から手塚カズさんの絵本の話になりました。3人ともそろって手塚さんと話がしたいと言ってました。子育て支援の話が「しんちゃんハウス」の存在まで広がり、その中のひとりが館合さんの書いた本「ぼく すごい」を借りていきました。今年もサポートハウスワンピースの子どもたちとの交流会が開催されるのなら、是非、ボランティアとして参加したい、などと熱気のある会話であったという間に1時間以上が過ぎていました。

4月3日(木)晴れ

昨年に引き続き、社会福祉協議会からロールペーパーを200個いただけることになり、スタッフの車で受け取りに行きました。その際、「共育マネージメントセミナー」のチラシを渡して参加を呼びかけました。「あの手この手」第14号もお届けしました。

4月5日(土)晴れ

中央7丁目子ども会役員のお母さん3人が来館。子どもたちに何かしてあげたいのだけど、と相談されたので、子どもに関われそうな団体の活動をいくつか紹介し、センターでの夏休み子ども企画に参加していただくよう話をした。“宿題をやるう”という日は中学、高校生のボランティアの参加も呼びかけていきたいです。登録用紙に以下のご意見が書かれていました。「気軽にご相談できる場所があって助かりました。これからも活用させていただきます。よろしく願いします」



何かあるかな？ 駅から市民活動センターに足が向いてしまいます。

「こんにちは」の挨拶がたまに「未だやりかけよ！」に聞こえたり、家に戻っての「ただいま」の返事が「どこへ行っていたの？」だったりします。(望月則男)

この4月より“拠点やまと”のメンバーとなり、その活性化に努めていきます。市民、団体そして登録団体相互の“つながり”を大事に考え、微力ながら、その要の一翼になればと思います。(浅見正明)

2004年10月に公布された大和市自治基本条例第11条に「市は、子どもが健やかに育つ環境をつくる責務を有する」とある。この条項の守り人のひとりでありたいと思いつつ。(小杉皓男)

熱血編集後記

お隣、商工会議所の庭にある桜が、桜吹雪となって市民活動センターを賑やかに舞いながら飾っていたのは、つい2週間前でした。今は市民活動センターのイチヨウの木がみずみずしい新緑となり、堂々と空に向かって伸びている姿は人の気持ちを新鮮にくれます。(桜井貞代)

市民活動センター自体は従来と変わりませんが、新たな運営体制となり、人事刷新してスタートが切られ、ベテランと新人の混成で頑張っています。特に他市の活動センターを学びながら、大和市らしい活動センターにしていきたいと思えます。(松村襄)

春が来ました。今年は去年とはまた違った一年にしたいですね。

今年度もよろしく願いいたします。
(中山みゆき)

新たな希望、目標を持って事を始める4月。市民活動センターも新しいスタッフが加わり始動しました。また違った味でみなさまに新鮮情報をお伝えしたいと思えます。(関根孝子)

皆さんに教えてもらうこと。覚えきれずにあわあわしています。今年はどうなるか、とても楽しみです。(山田裕子)

「桜月夜 今宵逢う人 みな美しき」と詠われた季節から、緑の色の移ろいを楽しむ頃となりました。四季のある国に住む喜びを存分に味わって暮らしたいです。
(石川美恵子)